

本田先生に聴く

うた
こころとからだといのちの詩

第6回

養生の道具としてのワクチン接種

いいたてクリニック 本田 徹 先生



人間は一生のうちには多くの感染症にかかり、乗り越えていきます。その大部分は細菌と、それよりもさらに小さなウイルスによって引き起こされます。昔は、はしか(麻疹)やジフテリアなどの病気がたくさんの子どもの命を落としましたが、ワクチンの発達・普及のおかげで、今や日本ではほぼ克服されています。

ただ、子どものころ皆がかり、軽く済ませていた、水ぼうそう(水痘)のような病気のウイルスが、高齢者の9割も人の体の神経組織内に潜んでしぶとく生き延び、その方の体力や免疫力が落ちるとウイルスが息

を吹き返し、帯状疱疹という厄介な皮膚の病気を起こすことがあります。この病気は、肋間神経や三叉神経(顔の知覚神経)などに痛みを伴う水疱性の発疹を起し、その痛みは発疹が消えた後も、長く神経痛として、患者さんを悩ませることがあります。現在は、ワクチンによって帯状疱疹をかなりの割合で予防できるようになりました。村でほぼ半額の補助が受けられますので、いちばん館でご相談ください。(下記①)

また、普通の社会生活でかかる肺炎の3分の1くらいは、肺炎球菌によるものと言われ、重症化して命を落とす高齢者もおられます。この病気も、65歳から無料で予防接種を受けることができます。(下記②)ぜひお受けになることをお勧めします。

新型コロナウイルス(下記③)も少し下火になってきましたが、次々と変異していくこのウイルスの性質上、気を抜くことはできません。海外では、新型コロナウイルス、子どもを中心とするRSウイルス肺炎、インフルエンザなどが同じ地域で重複して流行することもあり、海外渡航が自由化された今日、十分な対策や予防が必要となります。

最後に、江戸時代の学者貝原益軒先生は、『養生訓』という書物の中で、人の体は、「天地のみたまもの(御賜物)、父母の残せる身なれば、つつしんでよく養ひて、天年(天寿)を長くたもつべし」と述べています。今でも通用する、知恵ある言葉だと思います。

① 帯状疱疹予防接種 (お知らせ版4月5日号に掲載しています)

接種当日50歳以上の方が対象です。生涯で1種類のみを1度限り助成します。(費用の2分の1で、接種1回につき1万円が上限)

② 高齢者肺炎球菌予防接種 (お知らせ版4月20日号に掲載しています)

令和5年4月に村から予防票が届いた方(本年度に65歳・70歳・75歳・80歳・85歳・90歳・95歳・100歳になる方で未接種の方)が対象で、費用は無料。ただし通知が届いた方でも、過去に予防接種を受けた方は公費による接種はできません。

③ 新型コロナワクチン令和5年春開始接種 (対象者に個別通知しています)

現在進められている「令和5年春開始接種」は、初回接種を終了した65歳以上の方、12~64歳で基礎疾患を有する方、医療従事者等が対象です。

■ 各予防接種についての詳細は、健康福祉課健康係 ☎0244-42-1638までお問い合わせください。

ワクチン助成・接種情報

自衛官募集相談員を委嘱



5月18日、三浦盛さん(小宮)に自衛官募集相談員を委嘱しました。11期連続の委嘱です。自衛隊福島地方協力本部・武田智裕副本部長(右端)があいさつし「地域に根ざした情報を」と期待を伝えました。

飯館村商工会の要望



5月11日、飯館村商工会(鹿山真広会長/写真左から4人目/深谷)が来庁し、杉岡村長に要望書を手渡しました。要望は、電気料金の高騰により深刻な影響を受けている製造業への支援を求めたものです。

飯館村森林組合の要望



5月22日、飯館村森林組合(佐藤長平組合長/宮内)が要望書を提出。森林整備を一層推進するため、森林の多い地域に対し森林環境譲与税の配分を高めるよう、国への働きかけに、村の協力を求めました。

固定資産評価審査委員



5月8日、渡邊守男さん(小宮)、山田よし子さん(八木沢・芦原)に固定資産評価審査委員の辞令を交付しました。固定資産の評価に関する申し立てについて中立的な立場で審査を行っていただきます。

人権擁護委員に感謝状



人権擁護委員の高木久子さん(写真中央/大倉)、藤井美奈子さん(同左端/上飯樋)に福島地方務局から感謝状が贈られました。報告に来庁した両委員は「活動で人とつながり勉強にもなります」と話していました。

牛乳の消費拡大に協力を



6月1日の「牛乳の日」、6月の「牛乳月間」を前に、県酪農青年研究連盟が来庁。浜酪農青年研究会の田中一正さん(写真左/フェリスラテ代表/長泥)が杉岡村長に牛乳・乳製品を手渡し、消費拡大を呼びかけました。